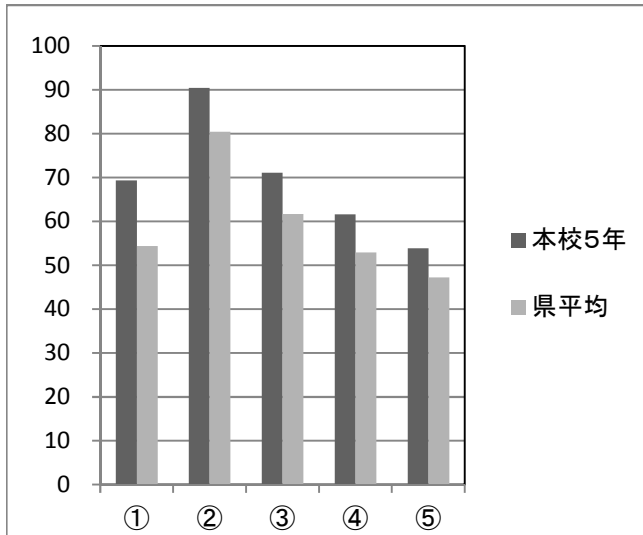


H31年度 生活習慣に関する意識調査 【5年】

【数値が特に高かった項目】

	調査の項目
①	学校が休みの土日に、1日あたり1時間以上 勉強している。
②	社会で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートに書いている。
③	平日は、午後10時前に就寝する。
④	携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人との約束を守る。
⑤	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。

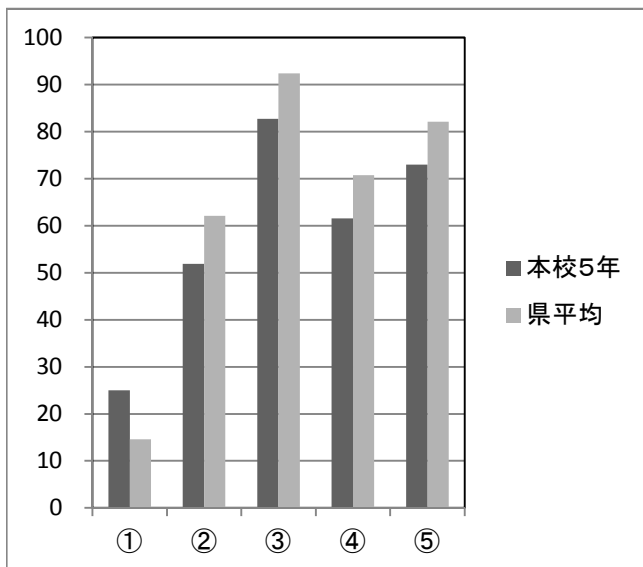


【分析】
 ・家庭での生活習慣は整っている児童が多いと思われる。(①③④)
 考えをもつことができれば、書いたり友達に伝えたりすることができると感じている。(②⑤)

【取組】
 ・家庭での生活習慣については、引き続き各家庭への啓発を含め協力をお願いしていく。
 授業や「ぐんぐんタイム」、家庭学習で自分の考えをもつ機会を継続的に設ける。

【数値が特に低かった項目】

	調査の項目
①	放課後、家でTV、ビデオ、DVDを見たり、ゲームやインターネットをしている。
②	新聞、TV、インターネットのニュースを読んだり見たりしている。
③	算数で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
④	国語で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
⑤	国語の授業の内容がよく分かる。



【分析】
 ・平日、1時間以上のテレビやインターネット等の視聴時間は、多いものの、ゲームやDVD等の視聴が主でニュースなどの情報には興味を示していないことが窺える。(①②)
 国語の授業の内容の理解や条件に合う考えをもつことや作文することに苦手意識をもっている。(④⑤)
 算数では、学習内容が生活に役立つ意識が薄いことが分かる。(③)

【取組】
 ・週末を利用して、自主学習でニュースを扱う日を意図的に設け、「記事の要旨」「選んだ理由」「記事についての感想」と決まった形式で取り扱い、ニュースへの関心を高めていく。新聞を購入している家庭が減少しているため、個人差を補う手立てが必要である。
 「ぐんぐんタイム」で書くことへの苦手意識を減らすために、短文ワークに取り組んでいく。また国語の授業でも、毎時間の学習のめあてを明確にし、考えをもったり、意見交流をしったりする学習過程をできるだけ多く設定していく。また、算数科については、学習内容と生活を関連付けた取組を実施する。